



社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.771 2011年1月31日

ARIBの動き

### ETS - VIII利用実験実施協議会第10回総会を開催

1月25日(火)に、当会の会議室において、ETS - VIII利用実験実施協議会第10回総会が開催されました。

総務省 情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課 森 孝課長の挨拶に続き、近藤 喜美夫会長（放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター 教授）が議長となって、議事が進行されました。

ETS - VIII(きく8号)は2006年12月に打ち上げられた技術試験衛星で、その特長は、テニスコート1面分の面積を持つ世界最大級のアンテナの展開に成功したことにより、地上端末の小型化・軽量化を可能にしたことです。

打ち上げ当初は、大型展開アンテナ受信系に不具合が発生したものの、地上局装置への増幅器追加等の対策が施されたことにより、実験の継続が可能となりました。その後、17機関が延べ139日間の利用実験を遂行し、各実験において所定の成果をあげてきました。

それらの実験がほぼ終了し、当初の目的を達成したことから、本協議会は2011年3月末をもって解散する方向で手続を進めていくことが決定されました。



技術試験衛星VIII型「きく8号」

### ETS - VIII利用実験成果発表会を開催

1月25日(火)に、上記総会に続き、当会の会議室において、ETS - VIII利用実験実施協議会の主催、総務省、独立行政法人情報通信研究機構、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、日本電信電話株式会社並びに社団法人電波産業会の後援で、ETS - VIII利用実験成果発表会が開催されました。

ETS - VIII利用実験実施協議会は、技術試験衛星 ETS - VIIIを利用して、これまで4年間にわたって様々な分野のアプリケーション実証実験（利用実験）を実施してきました。その対象は、災害対策・遠隔医療などの「安心・安全」、海洋資源探査、通信方式検証、測位・観測、遠隔教育、映像伝送など種々の分野に拡がっており、結果として世界初の実験成功を含めて各々の実験において大きな成果をあげてきました。

そこで、これまでの利用実験活動の集大成として、その成果をより広く公表することを目的に本成果発表会を開催しました。



ETS - VIII利用実験成果発表会の様子と近藤会長、住友衛星開発推進官（左から）

最初に、主催者である ETS - VIII利用実験実施協議会 会長の近藤 喜美夫氏の挨拶に続いて、総務省 情報通信国際戦略局 宇宙通信政策課 衛星開発推進官の住友 貴広氏から、ETS - VIII実験成果について報告がありました。その後、事務局を務める当会の法橋 誠主任研究員から、利用実験の実施状況と成果(全体概要)について報告があり、続いて以下の 8 件の実験成果の発表がありました。

発表 1 「災害救助・不整地走行ロボット遠隔制御技術の実証実験」

東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授 吉田 和哉氏

発表 2 「衛星回線を利用した緊急医療情報送受信解析とその評価及び遠隔医療教育に関する研究」

首都大学東京 健康福祉学部放射線学科 教授 八木 一夫氏

- 発表3 「無人ヘリを用いた災害通信ネットワークの衛星通信実証実験」  
ヤマハ発動機（株） スカイ事業部 開発グループ 主査 佐藤 彰氏
- 発表4 「衛星を利用した深海巡航探査機の情報伝送と遠隔制御実験」  
独立行政法人 海洋研究開発機構 海洋工学センター  
巡航探査機技術研究 G リーダ 吉田 弘氏
- 発表5 「衛星を用いた無線アドホックネットワーク通信実験」  
大阪工業大学 電子情報通信工学科 教授 安川 交二氏
- 発表6 「準天頂衛星での利用を目指した高精度測位補正実験」  
独立行政法人 電子航法研究所 通信・航法・監視領域  
上席研究員 伊藤 憲氏
- 発表7 「電離層擾乱観測プロジェクト」  
電気通信大学 宇宙・電磁環境研究センター 准教授 富澤 一郎氏
- 発表8 「フィールド教育実証実験」  
千葉大学大学院融合科学研究科 教授 大澤 範高氏

最後に、当会 研究開発本部の松井 房樹本部長から閉会の挨拶があり、成功裏に成果発表会を閉じました。

80名近くの受講者の皆様には熱心に聴講いただき、活発な質疑応答が交わされました。

## 第 177 回技術委員会(放送分野)を開催

第 177 回技術委員会(放送分野)を開催しましたので、その概要をお知らせします。

- 1 日時 平成 23 年 1 月 26 日(水) 午後 2 時から 3 時 36 分まで
- 2 場所 当会第 2 会議室
- 3 主な議題
  - (1) 放送新技術調査研究会の活動についての報告
  - (2) 放送新技術調査研究会設置要綱の改定についての提案とその承認
  - (3) 高精細度 TV スタジオ設備開発部会の活動についての報告
  - (4) 3DTV 放送方式検討作業班の設置についての報告
  - (5) 「標準規格に係る著作権の取扱いに関する基本指針」の制定についての説明
  - (6) 平成 22 年電波利用懇話会の開催状況についての報告

放送国際標準化ワーキンググループ 座長 西田 幸博  
(日本放送協会 放送技術研究所 テレビ方式研究部 主任研究員)



私は放送国際標準化ワーキンググループの座長を務めております。当ワーキンググループはITU-R 対応を中心とした放送分野の国際標準化に取り組むため、1996年に設置されました。私がITU-Rに関わり始めたのとほぼ同じ時期に当たります。その後、2001年に座長を引き継いで約10年が経ちました。このほか、私は、スタジオ設備開発部会、素材伝送開発部会、デジタル放送システム開発部会、そして品質評価法調査研究会で国内標準化や調査研究に携わって参りました。

ITU-RではSG6が放送業務に関わる標準化を担っています。地上デジタル放送や衛星デジタル放送の伝送方式、HDTV規格など、日本のデジタル放送の根幹となる技術がITU-R勧告として規定されています。最近では、マルチメディア放送やダウンロード方式などの新たな放送技術を日本から積極的に提案し、勧告化に結び付けています。また、超高精細映像やマルチチャンネル音響など、HDTVの先の次世代放送に向けた提案も行っています。このような活発な活動は、開発部会や調査研究会の活動にも支えられており、当ワーキンググループはITU-Rの国際標準化とARIBの国内標準化を有機的に繋ぐ役割も担っています。

放送は技術を活用した文化であると言われる。その技術を支える役割のひとつが標準化にあると思います。技術のガラパゴス化が話題となりますが、ARIBの標準化活動においては、日本での導入を大前提とすることは当然ですが、それに加えて諸外国での採用も考慮したユニバーサルな規格化が大事だと思います。

視聴者が様々な媒体を通じて容易にコンテンツを入手できるようになりましたが、デジタル放送を発展・進化させていくために標準化が果たすべき役割は一層重要になると思います。皆様のご理解とご協力を引き続きお願いいたします。

## 編集後記

花粉症の皆さん、悩まされる時期がまもなくやってきます。小生も3年前に発症し、毎年悩まされています。今年は、東京にやってくるのが2月中旬頃で、昨年に比べ10倍も飛散するという情報もありますので、事前の対策を十分に打っておく必要があります。

花粉が飛び始める2週間くらい前から、症状を抑える薬(抗アレルギー薬)の使用を始める治療が、発症を遅らせ、かつ症状を軽くするそうですので、手を打つなら今ですね。

(編集子: bsj)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
<http://www.arib.or.jp> E-mail [arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)